

80歳お祝い・米寿お祝いを鷹取山で

日時：2022年12月9日（金） 一般 天候：晴 歩数：9000歩 距離：6km

集合：JR東逗子駅10時

コース：東逗子駅→表参道→神武寺鷹取山登山口→逗子八景の神武寺の晩鐘→神武寺薬師堂→
なんじゃもんじゃの木→ハイキングコース→鎖場→石切り場→鷹取山(標高139m)→鷹取山公園
→磨崖仏弥勒菩薩尊像→92段の階段→湘南たかとりセンターバス停(プラチナコース4km)→
雷神社→京急追浜駅

参加者：1班 工藤秀春(班L) 奥村暁子(班SL) 勅使河原太蔵 河野陽子 山内祥三郎
市村芳雄(写真) 畠秀夫 高橋友子 内海栄子 鈴木宏美 内田由樹子
2班 熊坂和子(L 班L) 脇坂洋輔(班SL) ♡平山高雄 ♡清水正子 ♡澤敦子
♡鹿島條太郎 望月慶子 新井稔枝 戸崎悦子 入江裕美 亀田照美
3班 高橋吉則(SL 班L) 吉越悦子(班SL) 佐藤伊亮 ♡平嶋美保子 ♡仲賀也
高橋文雄 ♡♡小野里将 熊島八重子 ♡小林俊平 平林勝喜 ♡吉田正勝 大島啓太郎
(♡80歳 ♡♡米寿) 計34人

「今年は湘南の鷹取山で80歳12名と米寿の小野里さんのお祝いをします」の呼びかけに、80歳の方8人、米寿の小野里さん、お祝いに駆けつけた25人、計34人が鷹取山をめざしました。コースは、当初予定していた神武寺から登る道が工事で通行止めになった為、集合場所を横須賀線東逗子駅に変更、表参道～神武寺～鷹取山～湘南たかとりバス停～追浜駅になりました。

晴天に恵まれてのウォーキングになりました。鎖場など少し難所がありましたが、米寿の小野里さん、80歳8人の方をはじめ全員が標高139mの鷹取山を踏破。鷹取山公園では、ケーキで「80歳お祝い・米寿お祝い」を楽しく行いました。

80歳にして健康で歩けることは素晴らしいことだと思います。後輩の会員が「私も80歳になっても歩き続けたい」と元気をもらっています。目標になる80歳超えの会員は「神奈川ウォーキングクラブの宝」でないでしょうか。充実したスタッフで、緻密で楽しく安全にウォーキングができて大成功の「80歳お祝い・米寿お祝いを鷹取山で」となりました。



鷹取山公園

東逗子駅 コース説明 10時25分スタート～ゆるやかな上り道の表参道

朝6時20分、まもなく日の出です。自宅から西の空に満月が見えます、今日は晴模様。「晴天に恵まれて楽しいウォーキングになる」と、この日の集合駅東逗子駅へ向かい9時14分に到着。改札を出ると駅舎に「祝東逗子駅開業70周年」の横断幕。「何故70周年なのだろう、横須賀線の歴史はもっと古い」と調べたら、「横須賀線は、1889年（明治22年）6月に官設鉄道として横須賀駅まで開通。東逗子駅は地元住民の請願駅、沼間・桜山青年会からの駅開設要望で沼間駅建設促進実行委員会が結成されて、1952年4月1日に逗子駅・田浦駅間に開業した」とありました。駅前には逗子駅と比べて少し寂し気、広場にサッカー選手「友情」のモニュメントがありました。電車が事故で大分遅れているようで、みなさん心配して待っています。それでも10時少し過ぎには全員集合、隣の広場に移動してストレッチをして熊坂リーダーがコース説明、3班体制で各班のリーダーとサブリーダーが紹介されました。各班に分かれて点呼をして10時25分、1班から班ごとにスタート。踏切を渡って表参道のゆるやかな上り道から、まずは神武寺をめざします。



表参道～神武寺鷹取山登山口～上り石段～石畳道～山門～神武寺境内

表参道の一般道を上りきったところに天台宗神武寺の大きな石柱、そこに「神武寺鷹取山登山口」の看板がありました。ここからは石段を上って行きます、道は石畳の道になり山道になった感あります。1班の先頭は工藤班リーダー、グループの一番後ろは奥村班サブリーダー。その後ろに2班先頭の熊坂リーダー、グループの一番後ろは脇坂班サブリーダー。続いて3班が来ました。先頭は高橋吉サブリーダー、最後尾は吉越班サブリーダーです。2班が山門をくぐって境内に入りました。前方少し高いところに「神武寺の晩鐘」が見えます。



逗子八景の神武寺の晩鐘 神武寺薬師堂 なんじゃもんじゃの木

石段を少し上ったところに、名残りの紅葉に囲まれて「逗子八景の神武寺の晩鐘」がありました。「標高83m」の表示があり、大分上って来たのだと実感。「神奈川の景勝50選神武寺と鷹取山」の石板を見て、さらに石段を上ります。朱塗りの山門をくぐると神武寺薬師堂、私たち以外にも何組かの観光客が訪れていました。最後の3班が山門をくぐり「お薬師のお力によって、衆生の病苦が救われる」という薬師信仰の中心薬師堂へ。みなさん、健康とウォーキングの安全祈願をしているのでしょうか。境内には樹齢400年というホルトノ木（なんじゃもんじゃ）が空高く伸びて、根がしっかりと地を這っていました。



薬師堂～ハイキングコース～ロープ場～岩の隙間通り～鎖場～石切り場

水分補給をして11時、ここからは鷹取山をめざす少しアップダウンのあるハイキングコース。山内さんは、左手にお祝い用のケーキを持っての上り道です。「山火事注意 7 緊急時はこの番号を」の掲示板。横浜横須賀道路が山腹を貫いています。ロープが張られた急峻な下り、大きな岩の隙間を通り抜け、この日最大難関の鎖場へ。進行方向右側は深く切れ込んでいます。山筋ゴージャコ体操片脚立ち2分クリアの畠さんは体幹抜群、左肩に荷物も持ちながらも楽に登って来ます。前方勅使河原さんの的確な足取りはさすがです。最後の石段を上ってロッククライミングも行われる石切り場に出ると、空が開けて山頂展望台が見えました。



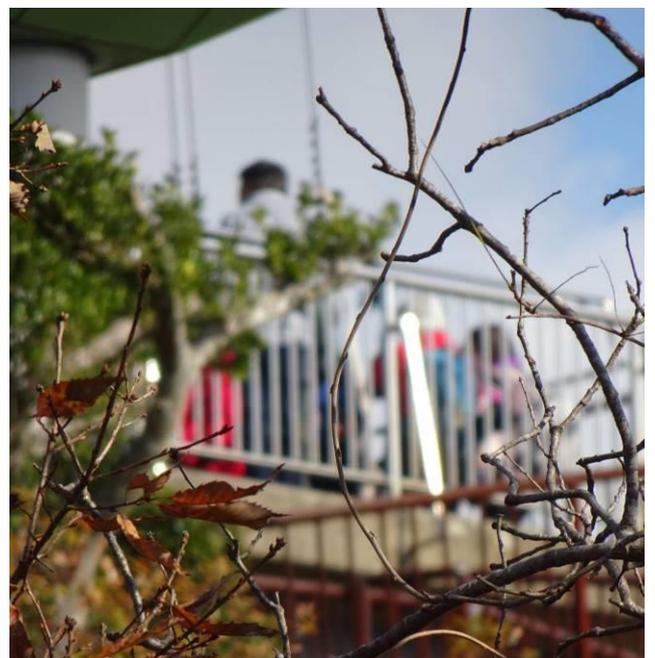
垂直に切り立った岩壁～11時40分 鷹取山(標高139m)～鷹取山公園

鷹取山は明治中期から昭和初期まで石材の採取をしていたため、垂直に切り立った岩壁が特徴です。切り出された石は、建築用材の他東京湾の海堡の建設にも使用されました。1班は、足元に注意して展望台をめざして上って行きます。11時40分、標高139mの山頂到着です。360度の大パノラマで視界が良ければ西方向に江の島、富士山、丹沢山塊が見えるはずでしたが、この時間帯は霞んでしまっていて見る事ができませんでした。南の方向には三浦アルプスの武山、大楠山。東の方向には追浜工業団地が見えました。展望台を下りて11時50分、東屋がある鷹取山公園で一足早く昼食タイムです。



2班も石切り場に続々到着～山頂下の草地～鷹取山山頂展望台へ

2班の写真を撮るために、公園から石切り場へ戻って出迎え。清水さんを先頭に女性たちが続々と上ってきます、最後尾は脇坂さん。みなさん山頂下の草地にまわり、工藤さんの先導で鷹取山山頂へ向かいます。石切り場から石段を下りて3班を出迎えに、途中で展望台の2班をズーム撮影しました。



急登を登る3班～石切り場～12時20分 鷹取山山頂展望台到着

熊坂リーダーの下の最後の急登を3班のみなさんが登って来ます。石切り場への下り石段を慎重に下りて、少し上って石切り場へ到着。ロッククライミングを楽しむ人でしょうか、岩壁の上に人の姿が見えました。12時20分、3班が鷹取山山頂到着です。展望台で80歳・米寿の方の踏破記念写真をパチリ。



鷹取山公園でお祝い 「80歳・米寿のみなさんおめでとうございます」

12時35分、3班が鷹取山公園へ到着して昼食タイム。並行して1班、2班の人たちがロールケーキをカットして「80歳・米寿お祝い」の準備。吉越会長が「80歳を迎えたみなさん、米寿の小野里さん、おめでとうございます。ここまで元気に歩いてこられて後輩の私たちも嬉しいです。これからも元気に歩き続けましょう」とお祝いのあいさつ。ケーキを頂き全員でお祝いをしました。東屋のテーブル席で80歳と米寿の方々の写真を1枚。集合写真と80歳先輩の方4人の写真を各1枚、みなさんお元気です。



公園 13時20分～摩崖仏～92段の階段～湘南たかとりセンターバス停

美味しいケーキを頂き大満足して13時20分、午後のスタートです。石切り場を抜けて上り道、少し身体が重くなっていますか……。少し進むと磨崖仏が現れました。この磨崖仏弥勒菩薩尊像、古い歴史があるかと思いきや説明板には「横須賀市在住の彫刻家藤島茂氏が昭和41年頃に製作」と書かれていました。大きなスズメバチの巣があり、「ハチに注意」の表示板が出されていました。岩場の間を抜けて磨崖仏の裏に出ます。92段の階段を慎重に下りて、バス通りの「湘南たかとりセンター」バス停へ着きました。ここまでがプラチナコースですが、全員が追浜駅をめざすことになりました。



バス停～雷神社 クールダウン～京急追浜駅 歩数：9000歩 距離：6km

ゆるやかな坂道を下りて、京急の踏み切りを渡り雷神社へ。クールダウンをして、歩数9000歩、距離6kmを確認。境内の大きな銀杏の木は黄色く色づき、足元には実がたくさん落ちています。神社を出て国道16号の歩道橋を渡り14時30分、京急追浜駅に着きました。



集合駅の東逗子駅で思い出すのは、2016年2月21日の「大楠山から田浦梅林」(健脚)のハイキング。リーダーは吉野さん、JR衣笠駅を9時少し過ぎにスタート、衣笠城址先の通行止めで迂回したこともあり東逗子駅に着いたのが真っ暗になった17時55分。歩数3万5千歩、距離27km、参加者26人(吉野(L)、平石(SL)、五十嵐し、高橋文、小野里、青松、斉藤優、中村年、河野、清水正、長井、森川、伊藤美、渡辺哲、栗田、山川、市村、高橋紀、高木、中村ゆ、志村、大島、小田、武倉、高塚、小島重)。みみなさん健脚でした。駅前の長寿庵でアフター。(詳細は小島さんの「みんなのレポート」参照)

(いちむら記)